

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1277500060		
法人名	有限会社吾亦紅		
事業所名	グループホーム われも紅		
所在地	千葉県いすみ市日在1239		
自己評価作成日	平成22年12月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成23年4月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症により自立が困難になられた方や、ご家庭での介護が困難になられた方を、温かい家庭的な雰囲気でお迎えし、自由な生活や生きがいを持って暮らしていけるよう、支援します。一人ひとりの尊厳を大切にし、利用者の立場に立ったサービスの提供をいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「われも紅」は日在浦から500mほど内陸部の大原漁港にほど近い場所に位置している。民宿を改造した建屋は黒光りした柱が目につく。当事業所ではなつかしい思いを感じさせる建物と、利用者や職員の共同生活が家庭的な雰囲気を醸し出し、掲げる理念「家庭的で親しみのある共同生活を送るよう援助する」を実践している様子が窺える。「廃品回収」等、地域と共に活動していて、庭で裸祭りの神輿担ぎが行われる等地域の理解も得ている。裏の畑での芋掘りや散歩の途中での南瓜の差し入れもある。東日本大震災では近隣の5名が駆けつけてくれた。当事業所では毎日、毎月1度、3ヶ月に1度等家族の来訪は一樣ではないが、家族との絆の維持を大切にしている。また農産物の直売所巡り、かかし祭りの見物、花栽培農家での花摘み、利用者の友人の舞踊の観賞等社会との関係継続に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いすみ市在住以外の方が多く、個々に合ったその人らしく暮らす支援をし、実践に取り組んでいる。	なつかしい思いを感じさせる建物と、利用者との職員の共同生活が家庭的な雰囲気を醸し出し、当事業所の掲げる理念「家庭的で親しみのある共同生活を送れるよう援助する」を実践している様子が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	芋ほりを体験させていただいたり、ハウス内のお花を戴いたり、入居者・職員と交流させていただいている。	「廃品回収」等、地域と共に活動している。庭で裸祭りの神輿担ぎが行われる等地域の理解も得ている。裏の畑での芋掘りや散歩の途中での南瓜の差し入れもある。東日本大震災では近隣の5名が駆けつけてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事務所や職員の状況に応じ取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みを開始した。	会議には、家族、区長、住民、いすみひなたのコーディネーター、デイサービス花の岡代表等が出席、事業所の現況を報告し地域密着型サービスについて話し合っている。参加者の意見はサービスの向上等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡し、相談等をふくめ連携をとっている。	わからないことや相談事は市の介護福祉課に連絡し、担当者の意見を訊くとともに課題解決等の協力を得ている。また集団指導の機会などでも意見交換をし、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。研修等への参加も行っている。	施錠や言葉による拘束を排除している。また職員の研修会への参加を進めるとともに、ミーティングの際やOJTで、危険を防止する目的外での「身体拘束をしないケアの実践」を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けるなど、ホーム内でも全職員に学ぶ機会を設け、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在5名の利用者が、成年後見制度を利用しており、十分行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験入所をしていただくなど、納得した上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、家族との連絡を取り合い、反映させている。	利用者の要望を聴き取り、運営やサービスに反映している。また、出来るだけ、全ての家族に出向いてもらい、意見や要望を聞き、運営に反映している。このためか利用者調査における家族の満足度は高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	24時間、連絡が取れるようにして、意見を聞くようにしている。	ミーティングは職員の勤務の状況を見ながら行い職員の気付いたことやアイデアを訊きだしている。また、管理者と職員のコミュニケーションが良く日常的に、気付いたことや意見を出してもらい、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分行えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修に参加したり、資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のデイサービスや、第6ブロックの研修など、交流に取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から情報を含め、本人の不安・要望等、家族を交えて安心をした生活を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の必要とする支援に附いては、他事業所の協力を得る等、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うケアを十分に実践し、人生の先輩に教えられ、また協力し合って暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、本人の不安、問題等両方の意見を別々に聞く等、十分に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年お花を供えたお地藏様に一緒に行ったり友人の踊りの発表会に行ったりしている。	毎日、毎月1度、3ヶ月に1度等家族の来訪は一樣ではないが、その絆の維持を大切にしている。また直売所巡り、かかし祭りの見物、花栽培農家での花摘み、友人の舞踊の観賞等社会との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	問題が起きたとき、十分に時間をかけ解決し利用者全員が安心して生活できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なくなられた後もご家族との助けあいや途中退所されてもお元気な姿を見せてくださり、季節のものを戴いたり、相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。	行商で野菜を売っていた人、花が大好きな人等、利用者の経歴や趣味、嗜好を大切に、農産物の直売所を巡ったり、食事のメニューに反映させたり、庭に草花を植えたり、その人の思いに応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、後見人、行政等、その人に必要に応じた情報を収集し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活、体力、精神状態を含め、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活を重視し家族にもできる限りの協力を得て話し合い、介護計画を作成している。	計画に基づく介護の状況を毎月家族に報告しているが、それらの状況を踏まえた家族の要望や利用者の日常生活の変化に応じて臨機応変に介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや日々の申し送りにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度の差が大きい中、常に個々にあったニーズに応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じ支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連絡を取り合い、寝たきりで受診できない場合でも、往診していただくなど支援している。	利用者の日常の健康管理は当事業所の管理者である看護師が担っている。協力病院に於いては利用者の体調変化に対応し、24時間体制で往診がある。歯科治療は、診察の時間外対応での配慮がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理を含め医師に相談し、指示を頂支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思決定が得られないケースが多い中、主治医と家族と早期の段階からの方針を話し合いを取り組んでいる。	看取りケアが出来る事を入所時に家族に伝えている。医師、看護師、家族の連携で行われるが、看護師は24時間利用者に寄り添い看護をしており、利用者を送った家族からは、感謝の言葉がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が『普通救命の講習』を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の協力を得ると共に、避難訓練を行い、協力体制を築いている。	当事業所は地域と共に活動しており、災害時に向けて、近隣の方々から応援の言葉を頂いている。スプリンクラーの設置義務は無いが、今年度中に設置予定で、既に工事の過程にはいつている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思疎通が図れない方に関しても一つ一つ丁寧な声がけなどを含め対応している。	利用者を人生の先輩と敬い丁寧な言葉で接している。意思疎通が図れない利用者にも黙ってケアをする事はせず、ケア毎に声掛けをし、出来るだけ利用者の納得を得るケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、食事を含め、生活全体で行えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、散髪・白髪染め等も行い、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、全員同じではなく提供するように努め、準備・後片付けをしている。	食器拭きなど出来る事は手伝って頂いている。利用者毎の好みに合わせ、又血糖値等にも配慮し食材を変えたり形状を変えたりし、美味しく残さず食べて頂ける様に利用者其々の食事を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェック、変色の利用者にはサプリメント、蕎麦湯、きな粉等を使い、個々にあった支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便のコントロールを把握し、必ず寝たきりの方もポータブルトイレで排便していただくように勤め、現在、便失禁はほとんどといってよいほど無いようになった。	早朝より個々に、座位にての排便支援を行っている。排尿は排泄記録等を基にトイレ誘導している。夜間に於いてもナースコール対応によりトイレ誘導をしている。パット使用は寝たきり利用者の夜間のみとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行い、個々にあった食材、食物繊維等で応じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ADLが自立している方については入浴を楽しんでいるが、重度化している利用者が多く危険が伴い、個々に合っていない部分もある。	入浴は通常週2～3回としている。個浴なのでプライバシーは守られており、利用者にとってリラックスタイムとなっている。寝たきりの利用者は、職員数人での対応となるが、同回数入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	応じられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にあった状態で工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、散歩、ボランティアや他の施設との交流で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力や近隣住民の好意を得て、芋ほりや他の市町村までのドライブなど、支援している。	近隣への散歩あるいはドライブでは、野菜の直売所を訪れ馴染みの方と話したり、花見や、野生の白鳥を見に行く等、利用者の希望を聞きながら、天気の良い日はほぼ毎日の様に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立している方については支援できているが、重度な方に附いてはお金の管理は難しく、事業所で立替方法をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者もあり、他の方に附いても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて工夫している。	当事業所の建物は利用者には馴染み易く、落ち着ける場所と思われる。居間では、利用者同士テーブルを囲み、和やかに語らう姿が見られた。食堂には金魚草等の色とりどりの花が飾られ花好きの利用者を喜ばせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に利用者の希望に沿うように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を踏まえて本人に合ったものを使いやすいように工夫している。	自宅とのギャップを出来るだけ感じさせない様、利用者が自宅で使用していた家具等の持ち込みをお願いしている。不足の物は家族と相談し、リサイクルショップ等で調達する支援もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不都合があれば其のつど改善し、安全な環境づくりに努めている。		